

摘蕾とせん孔細菌病対策しっかりと

～桃栽培講習会～

ＪＡ津軽みらいもも生産協議会（倉内信一会長）は4月23日、平賀基幹支店管内の葛西理人さんの園地で桃の栽培講習会を開き、生産者約30人が参加した。

中南地域県民局地域農林水産部農業普及振興室の福士泰永主幹が講師を務め、今後の栽培などを説明。「発芽は『あかつき』と『川中島白桃』どちらも平年より1日早い状況。花粉が少ない品種は結実確保のために人手授粉を行い、花粉が多く結実が良好な品種は摘蕾を積極的に行う。結果枝の背面や基部など成らせない部分の花芽は落とすこと」とポイントの説明と実演をした。

また重要病害の一つであるせん孔細菌病について、「せん孔細菌病は一度発生してしまうと農薬散布では抑えることができない。一次伝染源となる春型枝病斑は見つけ次第適切な処分を行い、新たな感染を防ぐため丁寧に薬剤散布をしてほしい。風が吹くことで病原菌が飛散して感染するので、万全な防風対策を行うこと」と呼び掛けた。当ＪＡでは、各栽培講習会や研修会、出荷基準説明会などを開き、高品質な桃生産を呼び掛け、ブランド力を強化する。



摘蕾を実践する講師の福士主幹（中央）

基準の徹底を

～キヌサヤ出荷説明会～

尾上青果センターは4月26日、平賀園芸センターでキヌサヤの出荷説明会を開いた。生産者やＪＡ関係者ら約10人が参加。出荷の規格や注意事項、今後の栽培管理などを確認した。

同センターの齋藤寿徳統括は「箱詰めはＬとＭサイズなど大きさをそろえ、品質基準を守り出荷すること」と呼び掛けた。また、今後の管理として薬剤の適期散布に努めるよう呼び掛けた。

県産のキヌサヤは高級品として、市場では高値で取引されている。今後5月下旬に1回目のピークを迎え、ハウスや露地栽培で11月まで収穫される。当ＪＡでは県内外の市場に約1万ケース（1ケース1㍑）の出荷を計画する。



出荷基準を確認する生産者

りんご栽培本格化 霜害注意

～りんご現地講習会～

尾上基幹グリーンセンターは4月17日、尾上地区でりんご現地講習会を開き、生産者15人が参加し、今後の栽培管理などを確認した。

同グリーンセンターの吹田聖子営農指導主任は管内の「ふじ」の発芽は平年より1日早い4月9日となったことを報告。開花は、今後の天候にもよるが平年より1日早い5月7日頃の見込み。

今後の栽培管理について、晴れの日が続くと放射冷却現象で朝方冷え込む恐れがあるので、霜害防止対策を徹底し、結実を確保するよう呼び掛けた。

また、黒星病防除のため発見次第適正に処分し、薬剤の散布間隔や散布量を守るよう指導した。

参加した生産者は「霜害防止対策と結実の確保を行い、高品質なりんご生産に努めたい」と話した。



今後の栽培について説明する吹田営農指導主任（左）